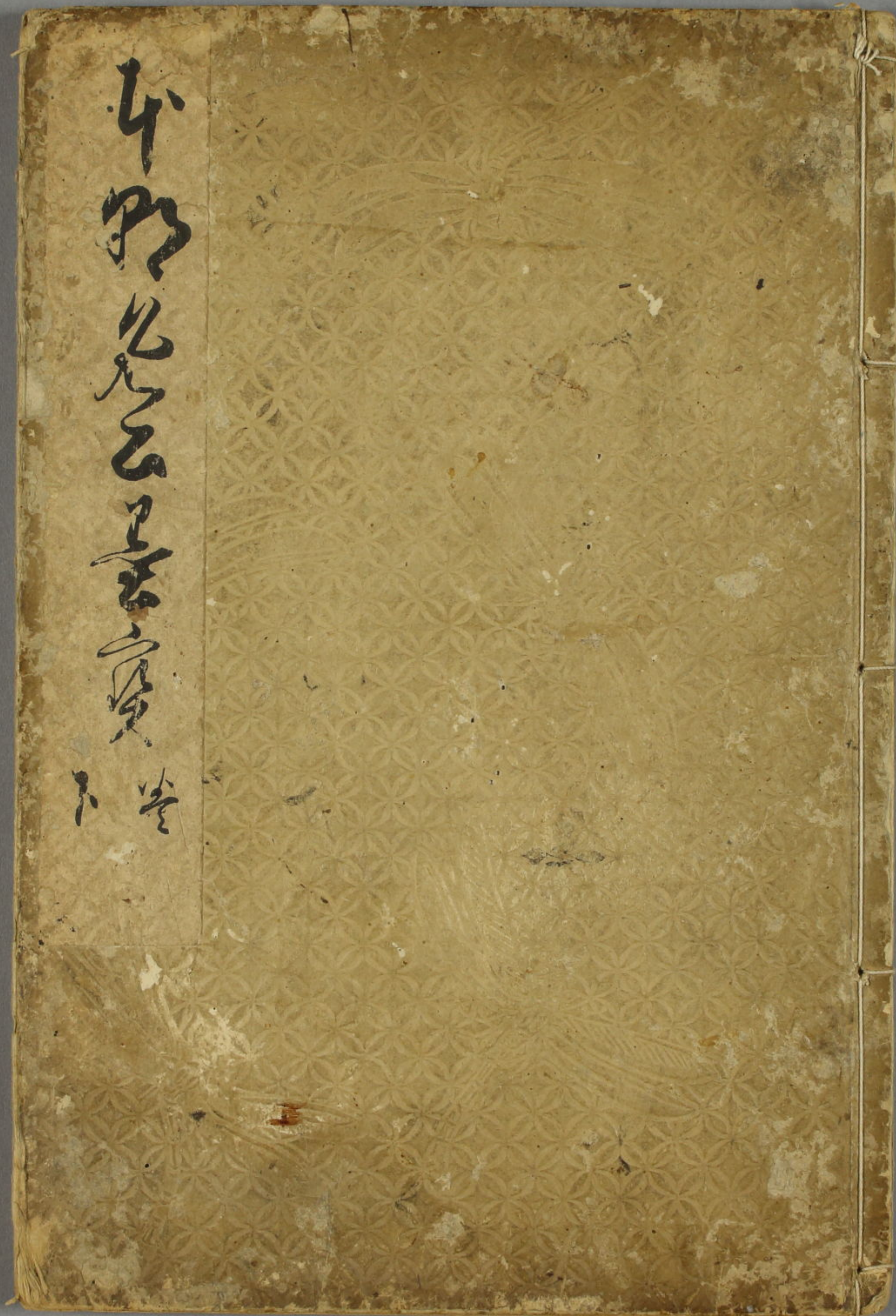




本草綱目卷之四  
下



本朝名公墨寶卷之下

目錄

八幡山惺々齋



雄德山松花堂惺翁

花下鳥歸園

美京樽前勳

醉是喜風

まゝに八様とれふ

さきもあはれ

神 かりあふ

あなまのしるし

位 細沙落

湖落 囁

飛 細沙落

さきもあはれ

了了了了了了了了

月夜之松窗夜之札と

花之了了了了

花之了了了了

了了了了了了了了

了了了了了了了了

了了了了了了了了

了了了了了了了了

鳥一  
時來

伴  
玉  
暮  
隨  
飛

羽  
踏  
落  
飛  
相

鳥  
一  
時  
來

伴  
玉  
暮  
隨  
飛

鳥  
一  
時  
來

あく羅ちふた

たて

心かろて

なれぬ

静かきふけり

衣帯

背  
癖  
物

福  
手

紗  
羅  
富  
名

考  
軍  
箱

きよきよ

きりき

花の文

きりき

きりき

きりき

きりき

きりき

あふ

きりき

きりき

あふ

五

孫河文竟

多山曲

俊是多美

彦下心



多  
ち  
り  
な  
り

ふ  
た  
り  
な  
り

り  
な  
り

何  
の  
け  
な  
り

城

と  
か  
り  
な  
り

松  
必  
雨  
洞

新  
秋  
地

桐  
多  
風  
涼

多  
か  
り

都とへへちちくく

かかああぬぬやや

ささのの子こがが

ああののここららははああののここらら

夜よすすここらら

風かぜ浪なみのの夜よ

静しずかにに思おもふふ

高たかきき及およびびのの朝あさ

渡わたりりのの舟ふね

三川と成美

カニカニカニカニ

カニカニ

夫の乳

カニ

カニカニカニ

三輝岸

雪花は初

白

一夜中

霜はあふ

子

心を無き

祿をくむは

譽をふく

名を<sup>慕</sup>ふ  
あつた

眼一室の鶴

森一日高見

飲酒歌

森一日高見

雲がくれ

ふとせはせり

ふとせはせり

あふれ

あふれ

晴く神と遊原

猿一門

雲の舟は流る

多しと云

カキ

まーろに 羅なる

乞川此

カキ

あは

カキ

若使榮部

若使榮部

若使榮部

若使榮部

晨明のさくら

こころまはれさ  
若

こころまはれ

うひくおね  
とねさけ

都頼曉興

曲丁志

都頼曉興

さくら





ふふれむれふ  
むるれまーや  
くつれま  
たふのけ乃  
ふれふれふ

ふふれま

れむれ

ふふれ

れむれ

ふいにきこふ

かりこや

秋の月

雪ふりこ

かきや

向晚簾以

生白露

終夜床底

見清し

天  
心  
~~~~~  
~~~~~

後  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

乃々々々々々

乃々々々々々

乃々々々

乃の乃

乃乃乃

乃乃乃乃乃

長生殿

乃乃乃乃乃

不老門

乃乃乃乃乃

よるのよる

こはるのよる

あけのよる

さるのよる

うるのよる

山市晴嵐

一竿酒旗斜陽意

数簇人家煙曉中

山路醉眠

歸去晚

太平一日

不憂風

しほ。葉もあ

うへに

枝

あつ

ま

遠浦歸帆

鷺島青山一抹秋

漁平浪浪橋下漁

歸橋漸入

暮色蒼茫

長在夕陽

江之頭

風むらさき

浪のうねり

清き水如斜光

之をみれば人

漁村夕照

薄暮沙汀成影

稿

江南江北開一鏡



呼聲貫酒

大品孫

卦老西風

桑一穂花

下

なみのうきをいふは  
此

泣くは  
此

まはるき  
此

の  
此

遠寺晚鐘

雲遮不見梵王宮

殷々鐘聲訢晚風

此去上方

猶遠近

爲言只在

此山中

く 驚く 驚く 驚く

はら

か ぬ の ち り へ ち り へ

今

ち ち ち ち ち ち

平沙落雁

古字 古字 古字

星 積

幾 何 幾 何 幾 何

道正法作

御為

籍向斜陽

刺束細

あきぬき

のこり

き

あき

あき

洞庭秋月

西風卷芳出

三

芳頃耀波流桂苑

下九六

漁舟不知

歸客恨

直吹寒秋

三

秋

冷

力

松

滿湘夜雨

足自皇心江易新禔

凍雲粘雨濕芳人昏

孤燈遙念

秋筍意

祇向竹枝

添減瘦

下九八

不子よ

たぬしりきり

よああ

しりきり

新流た

江天暮雪

雪浪江天暮雪  
玉蕊

扁舟一棹

扁舟

前湾伊苑

西静楼

彩笔山诗

高僧入



あゝの繁ふりねふ

おろし ふ・あ

浪

ふりよほのまは

ゆりよほのまは

古人學書者未有不從門入蘓公終為  
非家珍實知蘓公語病如彼鍾繇受章  
仲將羲之學衛夫人者有故乎名公墨  
寶者何 本朝諸名公之墨刻也

本邦自古未見有勤珉刻木之帖是非  
乏其人而好事者鮮矣一日或人以此  
事求我予假借所知家藏極究目力臨  
模鐫刻者若干人若干帖或行草或假

名惟急於成快有不得廣蒐博采之遺  
憾然墨寶之嗜好淳化之遺意也於是  
可見龍飛虎跳風雲浮動之姿縱雖無  
神采望其面目者也若臨池者步其蹊  
逕知其端倪者庶幾一助云爾

正保三年仲冬日

